

■ ミサの流れ（式次第）

* 以下の記載は、あくまでも一例であり、日によって表現が異なる場合がございますので、ご了承ください。

開 祭

- ① 入祭の歌と行列： 司祭が侍者ととともに聖堂に入堂するのを歌で迎えます。
「典礼聖歌」の中の歌を歌います。
- ② あいさつ：
司祭 父と子と聖霊のみ名によって。
会衆 アーメン。
司祭 主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、皆さんとともに。
会衆 また司祭とともに。
- ③ 回心： 司祭による回心への招きと、会衆による回心の祈り。
司祭 皆さん、神聖な祭りを祝う前に、わたしたちの犯した罪を認め、心を改めましょう。
司祭 全能の神と、
会衆 兄弟の皆さんに告白します。
わたしは、思い、ことば、行い、怠りによって、たびたび罪を犯しました。
聖母マリア、すべての天使と聖人、そして、兄弟の皆さん、
罪深いわたしのために、神に祈ってください。
司祭 全能の神がわたしたちをあわれみ、罪をゆるし、永遠のいのちに導いてくださいますように。
会衆 アーメン。
- ④ あわれみの賛歌（キリエ）： 典礼聖歌 203 「あわれみの賛歌」
【歌います】
主よ、あわれみたまえ 主よ、あわれみたまえ
キリスト、あわれみたまえ キリスト、あわれみたまえ
主よ、あわれみたまえ 主よ、あわれみたまえ
- ⑤ 栄光の賛歌（グロリア）： 典礼聖歌 204 「栄光の賛歌」

(四旬^{しじゆん}節^{せつ}と待降^{たいこう}節^{せつ}にはこの部分はありません)

【歌います】

司祭 天のいと高きところには神に栄光、

会衆 地には善意の人に平和あれ

われら主をほめ、主をたたえ、主を^{おが}拝み、主をあがめ、

主の大なる栄光のゆえに感謝したてまつる。

神なる主、天の王、全能の父なる神よ。

主なる^{おん}御ひとり子^ご、イエス・キリストよ。

神なる主、神の小羊、父のみ子よ。

世の罪を除きたもう主よ、われらをあわれみたまえ。

世の罪を除きたもう主よ、われらの願いを聞き入れたまえ。

父の右に^ざ座したもう主よ、われらをあわれみたまえ。

主のみ^{せい}聖なり、主のみ王なり、主のみいと高し、イエス・キリストよ。

聖霊とともに、父なる神の栄光のうちに。

アーメン。

⑥ 集会祈願：＊「聖書と典礼」を参照

司祭 祈りましょう。・・・聖霊の交わりの中で、あなたとともに^{よよ}世々に生き、支

配しておられる^{おんこ}御子、わたしたちの主イエス・キリストによって。

会衆 アーメン。

ことばの典礼

⑦ 第一朗読： 通常は、旧約聖書が、信徒により朗読されます。

＊「聖書と典礼」を参照

朗読者 ・・・朗読後に、「これは 神のみことばです」

会衆 神に感謝。

⑧ 答唱詩編： 「^{とうしやうしへん}答唱詩編」とよばれる聖歌が歌われます。直前の旧約聖書の朗読箇

所にふさわしい聖歌が歌われます。歌は「答唱」と「詩編」の部分に分かれます。詩編部分は会衆の代表者（聖歌隊）が歌うこともありますが、福井教会では、全部を全員で歌います。

- ⑨ 第二朗読： 通常は、新約聖書から使徒の書簡（手紙）が、信徒により朗読されますが、それ以外の部分が朗読されることもあります。

* 「聖書と典礼」を参照

朗読者 ……朗読後に、「これは 神の みことばです」

会衆 神に感謝。

- ⑩ アレルヤ唱： アレルヤ唱と呼ばれる歌が歌われます。次に読まれる福音にふさわしい歌詞になっています（四旬節には、アレルヤ唱の代わりに、「詠

唱^{しょう}」が歌われます）。

* 「聖書と典礼」を参照

* 「アレルヤ」とは、「主をほめたたえよ」という意味です。英語では、「ハレルヤ」（Hallelujah）です。

- ⑪ 福音朗読： 司祭が、福音書^{ふくいんしょ}を朗読します。

* 「聖書と典礼」を参照

司祭 主は皆さんとともに。

会衆 また司祭とともに。

司祭 ○○○による福音^{ふくいん}。

会衆 主に栄光。

その後、司祭により、福音書が朗読されます。

司祭 キリストに賛美^{さんび}。

会衆 キリストに賛美。

- ⑫ 説教： 司祭による説教。

- ⑬ 信仰宣言（クレド）： 使徒信条を唱えます。

司祭 天地の創造主^{そうぞうしゅ}、

会衆 全能の父である神を信じます。

父のひとり子、わたしたちの主、イエス・キリストを信じます。

主は聖霊によってやどり、おとめマリアから生まれ、

ポンティオ・ピラトのもとで苦しみを受け、

十字架につけられて死に、葬られ、陰府（よみ）に下り、

三日目に死者のうちから復活し、
天に昇って、全能の父である神の右の座に着き、
生者（せいしゃ）と死者を裁くために来られます。

聖霊を信じ、聖なる普遍の教会、^{せいと}聖徒の交わり、
罪のゆるし、からだの復活、
^{えいえん}永遠のいのちを信じます。アーメン。

- ⑭ 共同祈願： * 「聖書と典礼」を参照

感謝の典礼

- ⑮ 奉納行列と奉納の歌：^{ほうのう}感謝の典礼のためのパンとぶどう酒を^{さいだん}祭壇へ^{ほうのう}奉納します。
ミサ献金も同時に行われ、奉納されます（献金は任意）。

- ⑯ パンを供える祈り： 司祭による奉納の祈り。

司祭 神よ、あなたは万物の造り主。^{ほんぶつ つくぬし}

ここに^{そな}供えるパンは、あなたからいただいたもの、

大地の恵み、労働の実り、わたしたちの命の^{かて}糧となるものです。

会衆 神よ、あなたは万物の造り主。

- ⑰ ぶどう酒の準備

- ⑱ カリスを供える祈り： カリスとは、ぶどう酒を入れる聖杯のことです。

司祭 神よ、あなたは万物の造り主。

ここに供えるぶどう酒は、あなたからいただいたもの、

大地の恵み、労働の実り、わたしたちの命の^{かて}糧となるものです。

会衆 神よ、あなたは万物の造り主。

- ⑲ 清め

- ⑳ 奉納祈願：^{ほうのうき}司祭が会衆とともにささげる祈り。奉納したパンとぶどう酒、献金を
神が受け入れてくれるように司祭と会衆が心をつ一つにして祈ります。

司祭 皆さん、このささげ物を全能の神である父が受け入れて下さるように祈りましょう。

会衆 神の栄光と賛美のため、また、全教会とわたしたち自身のために、司祭の手を通してお捧げするいけにえを、お受けください。

司祭 ……わたしたちの主、イエス・キリストによって。

会衆 アーメン。

⑳ 叙唱前句： 感謝の祈りの始まり。

司祭 主は皆さんとともに。

会衆 また司祭とともに。

司祭 心をこめて神を仰ぎ

会衆 賛美と感謝をささげましょう。

㉑ 叙唱： 感謝の賛歌に先立つ祈り。

司祭 聖なる父、全能永遠の神、いつでも、主キリストによって賛美と感謝を捧げることは、まことに尊い大切な努め（です）。

.....

神の威光をあげ、権能を敬うすべての天使とともに、わたしたちもあなたの栄光を終わりなくほめ歌います。

㉒ 感謝の賛歌（サンクトゥス）： 典礼聖歌 205 「感謝の賛歌」

【歌います】

聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、万軍の神なる主。

主の栄光は天地に満ち。

天のいと高きところにホザンナ。

ほむべきかな、主の名によりて来たる者。

天のいと高きところにホザンナ。

㉓ 奉獻文： この中で奉獻されたパンとぶどう酒が、最後の晩餐にならって、キリス

トの御からだと御血である聖体に変化（聖変化）します。

【第二奉獻文】

司祭 まことにとうとく、すべての聖性の源^{せいせい みなもと}である父よ、

今、聖霊によってこの供えものをとうといものにしてください。

わたしたちのために主イエス・キリストの御^{おん}からだと御血^{おんち}になりますように。

主イエスは、すすんで受難^{じゆなん}に向かう前に、パンを取り、感謝をささげ、
割って弟子に与えて仰せになりました。

「皆、これを取って食べなさい。

これはあなたがたのために渡されるわたしのからだ（である）。」

【司祭は聖体を高く挙げて会衆に示す。

それから一同は深く頭を下げて礼拝する。】

食事の終わりに同じように杯^{さかずき}を取り、

感謝をささげ、弟子に与えて仰せになりました。

「皆、これを受けて飲みなさい。

これはわたしの血の杯。

あなたがたと多くの人のために流されて、

罪のゆるしとなる新しい永遠の契約の血（である）。

これをわたしの記念として行いなさい。」

【司祭はカリスを高く挙げて会衆に示す。

それから一同は深く頭を下げて礼拝する。】

②⑤ 記念唱： 聖変化の直後に、司祭と会衆によって唱えられます。

司祭 信仰の神秘。

会衆 主の死を思い、復活をたたえよう、主が来られるまで。

司祭 わたしたちは今、主イエスの死と復活の記念を行い、
ここであなたに奉仕できることを感謝し、

いのちのパンと救いの杯^{さかずき}をささげます。

キリストの御^{おん}からだと御血^{おんち}にとともにあずかるわたしたちが、
聖霊によって一つに結ばれますように。

世界に広がるあなたの教会を思い起こし、

わたしたちの^{きょうふ}教父○○○○世、

わたしたちの司教○○○○（姓名）、

すべての^{きょうえきしや}教役者をはじめ、全教会を愛の完成に導いてください。

また、復活の希望をもって眠りについたわたしたちの^{きょうだい}兄弟と、

すべての死者を心に^と留め、

あなたの光の中に受け入れてください。

なお、わたしたちをあわれみ、

神の母おとめマリアと聖ヨセフ、

使徒とすべての時代の聖人とともに永遠のいのちにあずからせてください。

^{おんこ}御子イエス・キリストを通して

あなたをほめたたえることができますように。

②⑥ ^{えいしやう}栄唱： 奉献文の結びの祈り。

司祭 キリストによって、キリストとともに、キリストのうちに。
聖霊の交わりの中で、全能の神、父であるあなたに。

会衆 すべての^{ほま}誉れと^{よよ}栄光は、世々に至るまで、アーメン。

交わりの儀

②⑦ 主の祈り： 聖体拝領に先立ち、まず主の祈りを唱えます。

司祭 主の教えを守り、みことばに従い、つつしんで、主の祈りを唱えましょう。

会衆 天におられるわたしたちの父よ、

^なみ名が^{せい}聖とされますように。

^{くに}み国が来ますように。

みこころが天に行われるとおりに、地にも行われますように。

わたしたちの日ごとの^{かて}糧を、^{きやう}今日もお与えください。

わたしたちの罪をおゆるしください。わたしたちも人をゆるします。

わたしたちを誘惑におちいらせず、悪からお救いください。

⑳ 副文

司祭 いくしみ深い父よ、すべての悪からわたしたちを救い、
現代に平和をお与えください。
あなたのあわれみに支えられ、罪から解放されて、
すべての困難にうち勝つことができますように。
わたしたちの希望、救い主イエス・キリストが来られるのを、待ち望んでいます。

会衆 国と力と栄光は、限りなくあなたのもの。

㉑ 教会に平和を願う祈り

司祭 主イエス・キリスト、あなたは使徒しとに仰せになりました。

「わたしは平和をあなたがたに残し、わたしの平和をあなたがたに与える」
わたしたちの罪でなく、教会の信仰をかえりみ、お言葉のとおり、
教会に平和と一致をお与えください。

会衆 アーメン。

㉒ 平和のあいさつ： 主がおきてとして残して下さった平和と一致があるように、ミサの参列者同士が平和のあいさつを交わします。手を合わせて「主の平和」と言いながら周囲の人へ軽く頭を下げましょう。

司祭 主の平和がいつも皆さんとともに。

会衆 また司祭とともに。

司祭 互いに平和の挨拶を交わしましょう。

会衆 主の平和。

㉓ 平和の賛歌（アニュス・デイ）： 典礼聖歌 206 「平和の賛歌」

【歌います】

神の小羊、世の罪を除きたもう主よ、われらをあわれみたまえ。

神の小羊、世の罪を除きたもう主よ、われらをあわれみたまえ。

神の小羊、世の罪を除きたもう主よ、われらに平安を与えたまえ。

㉔ 拝領前の信仰告白：

司祭 神の子羊の食卓に、招かれた者は幸い。

会衆 主よ、あなたは神の子キリスト、永遠の命の糧、
あなたをおいて、誰のところに行きましょう。

㉕ 拝領： 司祭から聖体を拝領します。

洗礼を受けたカトリック信者は、ご聖体をいただき食べることで、キリストと一致します。

司祭 キリストのからだ。

会衆 アーメン。

カトリックの洗礼を受けていない人は、聖体を拝領することはできませんが、司祭の祝福を受けることができます。せっかくの機会なので、皆と一緒に列に並んで祝福を受けてみましょう。司祭の前で手を合わせて軽く頭を下げると、祝福してもらえます。

③④ 拝領後の感謝： 拝領を感謝して歌います。典礼聖歌を用います。

③⑤ 拝領祈願： 聖体拝領後の祈り。
* 「聖書と典礼」を参照

閉 祭

③⑥ お知らせ： 教会からのお知らせがあります。

③⑦ 派遣の祝福： 新しい命を受けて、会衆はまたそれぞれの生活の場（福音宣教の場）へと派遣されます。

司祭 主は皆さんとともに。

会衆 また司祭とともに。

司祭 全能の神、父と子と聖霊の祝福が、皆さんの上に豊かにありますように。

会衆 アーメン。

③⑧ 閉祭のあいさつ：

司祭 感謝の祭儀を終わります。

行きましょう、主の平和のうちに。

会衆 神に感謝。

③⑨ 退 堂： 司祭と侍者が退堂するのを見送りながら、閉祭の歌を歌います。
「典礼聖歌」の中の歌を歌います。